

**「ART FOR TRANSFORMATION アートと未来。変容と創造。」
11月8日(金)から3日間開催**

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] を運営する東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は、オーストリアのリンツ市を拠点に活動する文化機関「アルスエレクトロニカ (Ars Electronica)」との事業連携のもと、「ART FOR TRANSFORMATION アートと未来。変容と創造。」を、2024年11月8日(金)から11月10日(日)まで、Shibuya Sakura Stageにて開催します。

<開催趣旨>

人の創造性から生み出されるアートには、人を、社会を、都市(まち)を、より良い方向に変える可能性があります。「ART FOR TRANSFORMATION アートと未来。変容と創造。」は、その可能性を皆さんと一緒に考える3日間です。

渋谷を拠点として活動するシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] と、オーストリアの文化機関アルスエレクトロニカの連携により、アートとデジタルテクノロジーを通じた創造性から広がる可能性への入口を、渋谷の新たな玄関口にて展開します。

開催概要

会 期： 2024年11月8日(金)～11月10日(日)

開場時間： 10:00～19:00

会 場： Shibuya Sakura Stage (〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町1-1)
3階 BLOOM GATE ZONE A/B
38階 manoma (11/8のみ)

料 金： 入場/参加無料

主 催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

事業連携： アルスエレクトロニカ

後援： オーストリア文化フォーラム東京、日本経済新聞社

公式ウェブサイト： <https://ccbt.jp/>



【広報に関するお問い合わせ】

アーツカウンシル東京デジタルクリエイティブ推進課

MAIL: digital-creativity@artsCouncil-tokyo.jp TEL: 03-6261-5420

CCBT 活動紹介展示



Photo : Tada (YUKAI)

クリエイティブ×テクノロジーが導く表現や考え方は、市民自らがつくりだす都市や社会システム、コミュニティ、そしてサステナビリティ（持続可能性）へのみちしるべとなります。私たちの生活や文化への新たな提案をもたらす活動として取り組んだCCBT開所からの約2年間を、パネルと映像でご紹介します。

会場：3階 BLOOM GATE ZONE B
日程：11月8日（金）～11月10日（日）
時間：10：00～19：00

映像展示 from Ars Electronica Animation Festival 2023 on Tour



Photo: Delivery Dancer's Sphere; Credit: Ayoung Kim

アルスエレクトロニカのプログラム Ars Electronica Animation Festival 2023 on Tour から、複数の映像作品を会期中特別上映します。

会場：3階 BLOOM GATE ZONE A
日程：11月8日（金）～11月10日（日）
時間：10：00～19：00

※以下のワークショップ/トーク開催時間を除き、会期中連続上映いたします。

11月9日（土）13：30～15：30、18：00～19：00
11月10日（日）11：00～12：00、13：30～15：00

メモリー・ボリューム・リアリティ・キャプチャー・ワークショップ



リアリティ・キャプチャーとは、私たちの身の回りにある立体物をスキャンし、その場所や物体をデジタル空間に再構築するプロセスです。渋谷の街を一緒に歩き、遊びながら新しいテクノロジーを体験し、創造的なアイデアや考え、思い出を共有するワークショップです。

※このワークショップでは、iPhone と専用のアプリ (Scaniverse) を使ってスキャンを行います。貸出用の iPhone をご用意しておりますが、お手持ちの iPhone 使用をご希望の場合は、事前にアプリ (Scaniverse) のインストールをお願いいたします (iPhone11 以上推奨)。

会場：①・②共に 3階 BLOOM GATE ZONE A

① 11月9日(土) 13:30~15:30

対象：誰でも参加可能 (中学生以上推奨)

定員：16名

申込：事前申込制 (先着順)

② 11月10日(日) 13:30~15:00

対象：小中学生 (ご家族等グループで参加可能/小学生は必ず保護者の方と一緒にご参加ください)

定員：8組程度

申込：事前申込制 (先着順)

ファシリテーター

デニス・ヒルテンフェルダー (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ リサーチャー)

ヨハネス・ポール (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ リードデザイナー)

久納鏡子 (アルスエレクトロニカ・アンバサダー)

今野恵菜 (プログラム/エクスペリエンスデザイナー)



デニス・ヒルテンフェルダー



ヨハネス・ポール



久納鏡子



今野恵菜

ウェルカム・トゥ・プラネット B - キッズ・ワークショップ



Photo: Ars Electronica - Robert Bauernhansl

「食」「住」「移動」の3つをテーマに、アニメーションの物語と一緒に作ります。体験した物語から発想を膨らませて、自分自身にとっての未来の地球 (プラネット B) をスケッチし共有し合います。持続可能な未来を思い描く想像力/創造力を発揮しながら、それぞれの考え方の違いとその発想の豊かさを感じることでできるワークショップです。

会場：3階 BLOOM GATE ZONE A

日時：11月10日(日) 11:00~12:00

対象：7~10歳程度 (要保護者同伴/保護者の方は見学)

定員：25名

申込：事前申込制 (先着順)

ファシリテーター

デニス・ヒルテンフェルダー (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ リサーチャー)

久納鏡子 (アルスエレクトロニカ・アンバサダー)

今野恵菜 (プログラム/エクスペリエンスデザイナー)



デニス・ヒルテンフェルダー



久納鏡子



今野恵菜

トーク XR とこれからのシビッククリエイティブ

アートとデジタルテクノロジーを活用して人々の創造性を社会に発揮すると、都市にどのような変化が起こる可能性があるのでしょうか。異なる分野や立場からアート/テクノロジー/クリエイティブが交差する現場で活動してきた3者が、XR（クロスリアリティ）と、これからの都市（まち）、そして市民の創造性について語り、一緒に考えます。

■登壇者

白石淳二（Niantic, Inc.事業開発部門 シニアマネージャー）

瀬賀未久（MVMNT、2024年度CCBTアーティスト・フェロー、3D Digital Archive Project）

小川秀明（CCBTクリエイティブ・ディレクター/アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表）



白石淳二



瀬賀未久



小川秀明

会場：3階 BLOOM GATE ZONE A

日時：11月9日（土）18：00～19：00

定員：着席40名

申込：事前申込制（先着順）

カンファレンス/ネットワーキング

アートとデジタルテクノロジーを活用して社会にイノベーションを起こす可能性を参加者と一緒に、学び、考え、つながるプログラムです。ビジネスパーソン、アーティスト、クリエイター等、イノベーションを目指す幅広い皆さまのご参加をお待ちしています。

会場：38階 manoma

日時：11月8日（金）13：00～18：00

定員：70名

申込：事前申込制（先着順）※13：00～18：00一括でのお申込みとなります。

（1）基調講演 “Art for Innovation”の最前線

13：00～

■登壇者

杉山 央（新領域株式会社 ART+TECH プロデューサー）

小川秀明（CCBTクリエイティブ・ディレクター、アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表）



杉山 央



小川秀明

（2）事例紹介

14：00～

セッション1:東京（CCBTから広がる社会実装）の事例

■登壇者

橋本敦子（センサリールームプロデューサー、SnoozeLab.代表理事、2023年度CCBTアーティスト・フェロー）

丹羽菜生（中央大学研究開発機構准教授）

モデレーター：生田 綾（メディア「CINRA」編集長）



橋本敦子



丹羽菜生



生田 綾

14：30～

セッション2：アルスエレクトロニカの事例

■登壇者

井出信孝（株式会社ワコム代表取締役兼 CEO、一般社団法人コネクテッド・インク・ビレッジ 代表理事、S+T+ARTS2020 審査員）

福原志保（アーティスト、研究者、S+T+ARTS2019 受賞、2024 年度 CCBT アーティスト・フェロー）

モデレーター：久納鏡子（アルスエレクトロニカ・アンバサダー）



井出信孝



福原志保



久納鏡子

15：00～

セッション3：アート×ソーシャルビジネスの事例

■登壇者

徳井直生（株式会社 Qosmo/Neutone 代表、アーティスト）

モデレーター：生田 綾（メディア「CINRA」編集長）



徳井直生



生田 綾

15：30～

セッション4：アート×企業の事例

■登壇者

林 亜季（株式会社ブランドジャーナリズム代表取締役、Ambitions 編集長）

モデレーター：生田 綾（メディア「CINRA」編集長）



林亜季



生田 綾

16：10～

(3) オープンディスカッション

17：00～

(4) ネットワーキング

事前申込はこちらから



<https://ccbtx.jp/>

※プログラムの内容等は変更になる場合がございます。予めご了承ください。



Photo: Ars Electronica / Robert Bauernhansl

アルスエレクトロニカ (Ars Electronica) とは

Ars Electronica (アルスエレクトロニカ) は、オーストリアのリンツ市を拠点に 40 年にわたり「先端テクノロジーがもたらす新しい創造性と社会の未来像」を提案し続けている、世界的なクリエイティブ機関です。アート、テクノロジー、社会をつなぐ出会いの場を創造し、横断的「未来」を提案しています。

公式ウェブサイト：

<https://ars.electronica.art/news/en/>



Photo : Tada (YUKAI)

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]、 「CCBTx」とは


2022 年 10 月、渋谷に誕生したシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] は、アートとデジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点です。「CCBTx」は、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] のミッション「Co-Creative Transformation of Tokyo」の下、「発見」「共創」「開発」「連携」を体現するため、国内外の分野を超えた多様なパートナーと連携して事業を実施し、創造的な社会モデルを提示していくプログラムです。

公式ウェブサイト：

CCBT <https://ccbt.rekibun.or.jp/>

CCBTx <https://ccbtx.jp/>

関連イベント

SIW 共催	
『CCBTx×SOCIAL INNOVATION WEEK2024』ART FOR TRANSFORMATION プレトーク 「食から未来を考える」	
渋谷を拠点に活動するプロデューサー、アーティスト等の登壇者が、「食」をテーマに未来を一緒に考えるトークイベントを DOMMUNE で配信します。	
日時：11月5日（火）19：00～21：00 会場：SUPER DOMMUNE（ライブストリーミング配信のみ） 料金：無料	
■ゲスト 市原えつこ（アーティスト、妄想インベーター、2024年度CCBTアーティスト・フェロー） 柴田祐輔（アーティスト、2024年度CCBTアーティスト・フェロー「柴田祐輔+Token Art Center」より） 長田新子（一般社団法人渋谷未来デザイン理事・事務局長/SIWエグゼクティブプロデューサー） 宇川直宏（現“在”美術家・DOMMUNE主宰、CCBTアーティスト・フェロー審査員／メンター） 齋藤精一（パノラマティクス 主宰）	
DOMMUNE 公式ホームページ (https://www.dommune.com) からご覧いただけます。 	
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人 渋谷未来デザイン	
CCBT ミートアップ	
インクルーシブにつくる／つかう道具とは？～CCBT+東京藝術大学芸術情報センター（AMC）「音楽デバイス開発プロジェクト」報告会～ CCBTは、東京藝術大学芸術情報センター（AMC）と、トーンチャイムという楽器を用いて、その響きを、光や映像として体験できるシステム「VisVib（ヴィズ・ヴィブ）」を協働開発しました。「VisVib」は、音楽ホールでのワークショップに導入することなどを目的とした、障害の有無に関係なく音楽を楽しみ、新しい音楽体験をつくり出すツールです。このシステムを、セットアップや使い方の動画等とともにオープンソースで公開したことにあわせ、開発経緯や使い方の説明、また「VisVib」を導入したワークショップの事例、このシステムの楽しみ方や展望を発表します。	
日時：2024年11月10日（日）14:00～16:30 会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] 東京都渋谷区宇田川町 3-1 渋谷東武ホテル地下2階 入場無料／申込不要 情報保障支援：日本語対応手話—日本語 通訳付き 主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] 企画制作：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] 公式ウェブサイト： https://ccbt.rekibun.or.jp/	